

# 本がいっぱい!



## Teen's 2012

### 『精霊の守り人』《YFウ》

上橋 菜穂子/著 新潮社

突然の事故から皇子チャグムの命を救った、スゴ腕の女用心棒バルサ。しかし、その事故は偶然起きたものではなかった…。迫りくる刺客との戦い、チャグムに起こる不思議な現象にバルサは巻き込まれていく…。波乱の物語が、今、幕を開ける!



### 『カエルの歌姫』《YFキ》

如月 かずさ/著 講談社

ぼくはこの声で歌っているときだけ、本当の自分になれるんだ…。校内放送で流れた覆面アイドル「雨宮かえる」の歌声。しっかりとした透明感のある女声に校内の人気はうなぎのぼり。でも実は、かえるには秘密があつて…。

### 『神去なあなあ日常』《YFミ》

三浦 しをん/著 徳間書店

高校卒業と同時に、突然林業の世界に放り込まれた主人公の勇気。ヒルの襲撃、神隠し…。豊かな自然に囲まれた神去村の「なあなあ(ゆっくり行こう)」で、時にワイルドな生活に、きっとあなたも引き込まれることでしょう。

### 『東京バンドワゴン』《YFシ》

小路 幸也/著 集英社

「東京バンドワゴン」は、下町の一角にある老舗の古本屋。営むのは、8人の大家族堀田一家だ。個性派ぞろいのこの一家に、風変わりなご近所さんも加わって、おかしい事件が巻き起こる。今日も、突然百科事典が姿を消し…。

### 『落ちこぼれ 一茨木のり子詩集一』《Y91.1》

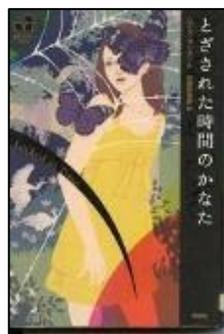
茨木 のり子/著 水内 喜久雄/選・著 はた こうしろう 絵 理論社

「落ちこぼれ 和菓子の名につけたいようなやさしさ……落ちこぼれ 結果ではなく 落ちこぼれ 華々しい意志であれ」所沢ゆかりの詩人でもある著者の、優しいけれど凛とした詩の世界を味わってください。

### 『江戸の町』上・下《52》

内藤 昌/著 穂積 和夫/イラストレーション 草思社

歌舞伎、浮世絵、花火、寿司…。現在、世界に通じる日本の文化が、<sup>けんらんごうか</sup>絢爛豪華に花開いた江戸時代。その発展は町の歴史と共にありました。上巻では町の起源と成立が、下巻では町の最盛期とその後の変遷が紹介されています。



### 『とざされた時間のかなた』《YFダ》

ロイス・ダンカン/作 佐藤 見果夢/訳 評論社

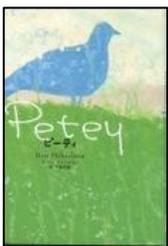
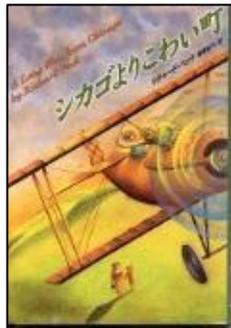
父親が突然再婚し、新しい家族とひと夏を過ごすことになったノア。仲良くなろうと思うけれど、新しい家族はどこか不思議な雰囲気、恐怖さえ感じる…。そこでノアが感じた疑念、そして探り当てた真実とは?

TOKOROZAWA PUBLIC LIBRARY  
所沢市立所沢図書館

## 『シカゴよりこわい町』 《Y Fペ》

リチャード・ベック/著 斎藤 倫子/訳 東京創元社

田舎のおばあちゃんは、銃はぶっ放すわ、保安官のボートを盗んで禁漁区で魚とりはするわ、犯罪ぎりぎりの騒動を起こす豪放ぶり。大柄で無愛想なおばあちゃんの、ハラハラする行動の裏にかくされた、真の強さと優しさが心にしみる一冊です。



## 『ピーティ』 《Y Fマ》

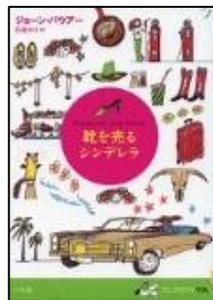
ベン・マイケルセン/作 千葉 茂樹/訳 鈴木出版

重度の脳性マヒを持つピーティ。意志があるのに、それを伝える手段がなくて誤解されて成長します。つらいことが多い人生だけど、生を受けたことに感謝して、懸命に人生を楽しもうとする姿に心打たれます。

## 『靴を売るシンデレラ』 《Y Fバ》

ジョン・パウアー/著 灰島 かり/訳 小学館

靴店でアルバイトをしているジョナは、車の免許取りたてだというのに、社長のドライバーとして抜擢され、6週間の長旅に。危なっかしい運転の上、社長は頑固な婆さんで、冷や汗をかきながらの珍道中だ。この無謀な旅の理由は、靴店乗っ取り計画を阻止するためだったのだが…。

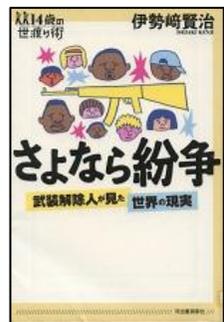


## 『さよなら紛争』 —武装解除人が見た世界の現実—

《Y 31》

伊勢崎 賢治/著 河出書房新社

今も世界の中で起きている紛争や戦争。「紛争屋」として世界の現実に直面してきた著者が考える「平和」とは？世界から紛争をなくすために、日本人だからこそできることがあるはず。みんなもその方法を考えてみませんか？



## 旅に出たくなる本！！



## 『旅に出よう —世界にはいろんな生き方があふれてる—』

近藤 雄生/著 岩波書店 《Y 29.3》

5年3か月の旅で世界各地の様々な人に出会い、無数の生き方が可能だと実感した著者。世界に出れば、日本の「普通の生き方」が標準でもなんでもないことがわかる。さあ著者と一緒に、いろんな生き方を知る旅に出てみよう！

## 『極北に生きる人びと —アラスカの詩—』 《29.3》

星野 道夫/著 新日本出版社

「心のフィルムにだけ残しておけばいい風景が時にはある。」写真家にそういわせるほどの美しい極北の地アラスカ。そこで生きる人々が抱く、自然へのおそれ、すべての生き物への感謝。さまざまな思いに触れることができる一冊。

※他のアラスカの詩シリーズ『めぐる季節の物語』『夢を追う人』もおすすすめです。

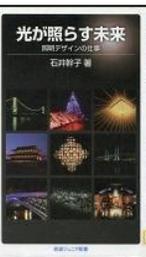


## 職業に関連した本！！

## 『ぼくは恐竜造形家 —夢を仕事に—』 《45》

荒木 一成/著 岩崎書店

中学生の時の「こんなカッコわるいもんなら、自分でつくったもののほうがましや」という思いから、恐竜模型やフィギュアのもととなる原型を作る恐竜造形家になった著者。恐竜が好き！！というあなたにおすすすめです。



## 『光が照らす未来 —照明デザインの仕事—』 《Y 54》

石井 幹子/著 岩波書店

日本にまだ照明デザインという言葉がない時代に、新たな分野を切り開いた著者の挑戦の記録。

## 『ペンギンの教え —15歳の寺子屋—』 《28.9》

小菅 正夫/著 講談社

ペンギん館など独自の展示で人気の旭山動物園。その元園長が動物たちから学んだ動物の不思議や命の大切さが胸に響く。

